

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 言語コミュニケーション文化研究科 |
| 大項目 | 6 教育内容・方法・成果 (研究科) |
| 中項目 | 6.1 教育目標、学位授与方針、教育課程の編成・実施方針 |
| 小項目 | 6.1.1 教育目標に基づき学位授与方針を明示しているか。 |
| 要素 | 学士課程・修士課程・博士課程・専門職学位課程の教育目標の明示 教育目標と学位授与方針との整合性 修得すべき学習成果の明示 |
| 小項目 | 6.1.2 教育目標に基づき教育課程の編成・実施方針を明示しているか。 |
| 要素 | 教育目標・学位授与方針と整合性のある教育課程の編成・実施方針の明示 科目区分、必修・選択の別、単位数等の明示 |
| 小項目 | 6.1.3 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針が、大学構成員(教職員および学生等)に周知され、社会に公表されているか。 |
| 要素 | 周知方法と有効性 社会への公表方法 |
| 小項目 | 6.1.4 教育目標、学位授与方針および教育課程の編成・実施方針の適切性について定期的に検証を行っているか。 |
| 要素 | |

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況(達成度)評価 | | | | |
|------------------------------------|------------------------------|-------------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. 「言語コミュニケーション文化学」に関する専門家の養成を目指す。 | →カリキュラム委員会においてのカリキュラムの定期的検証。 | A | A | A | A | A |
| 2. 社会人学生を受け入れ、高度職業人の養成を目指す。 | →大阪梅田キャンパスでの開講数。 | A | A | A | A | A |
| 3. 課程博士学位授与者を毎年度1名以上輩出する。 | →研究指導体制の改善、公表。 | A | A | A | A | A |

| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
|-------------------|-----------|------|------|------|------|------|
| | → | | | | | |
| | → | | | | | |

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 目標1 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 「言語コミュニケーション文化学」に関する専門家の養成を目的として、カリキュラム委員会においてカリキュラムの定期的検証を行った。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 言語教育学領域および言語文化学領域のカリキュラム改編を実施し、さらに2015年度より言語文化学領域に多言語多文化学際プログラムを新設することが決定した。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後も同様の体制でカリキュラムの定期的検証を行う。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |

| | | | |
|-----|---|--|---|
| 目標2 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 社会人を対象とする夜間の課題研究コースを研究科開設当初より設置し、現職の英語教員の再研修の場を提供する等、社会人を対象にした広報活動に力を入れてきた。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 大阪梅田キャンパスでの開講数は35であり、夜間開講科目の受講だけで修了することも可能である。ただ、近年では課題研究コースの入学者が減少傾向にある。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 課題研究コースに関する広報活動を強化する。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |
| | | | ☆ |
| 目標3 | A | Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 教育目標・学位授与の方針は、入試要項および研究科ホームページ等で公表している。 | ☆ |
| | | Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 当該期間中、毎年度1名以上の課程博士学位授与者を輩出し、計11名となった。 | ☆ |
| | | Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 今後もこの状況を継続していく。 | ☆ |
| | | その他 | ☆ |
| | | | ☆ |
| 備考 | | ☆ | |